さいたま市立中尾小学校　７月号（第４９０号）　令和５年６月３０日

中尾小だより

学校教育目標
知・徳・体の調和のとれた
心豊かな児童の育成

〒336-0932　さいたま市緑区中尾 2596-1
HP　http: nakao-e.saitama-city.ed.jp　ＴＥＬ：048-873-0216　FAX：048-810-1120

「手を挙げて横断歩道を渡りましょう」

校長　　小長谷　雅彦

梅雨の合間をぬって各学年のプール開きが行われ、水泳指導が始まりました。６年生が、清掃を手伝ってくれ、きれいなプールで行われています。１・４年生は、心電図検査の結果待ちで、７月当初までには、１回目の入水が行える予定です。関東地方の梅雨明けは例年７月１９日頃のようですが、安全第一で楽しい水泳の学習になるように、教職員一同努めていきます。

さて、中尾小の児童の皆さんのいいところさがしをしてみました。いろいろある中で、私の心に浮かんだのは、中尾小の皆さんの多くが、朝の登校時、しっかり手を挙げて横断歩道を渡っている場面が多く見られることです。私や教頭先生、学校地域連携コーディネーターは、登校時、旗振りに出かけているのですが、そういう場面を多く見ることができてとても嬉しいと意見が一致しました。車を運転する立場で、子どもたちがしっかり手を挙げていたら、止まろうと思ったり譲ってあげようとほとんどのドライバーが考えると思います。横断歩道で手を挙げる動作は、歩行者が渡っているということを知らせるための合図であるとともに、ドライバーへの感謝の気持ちを表すサインでもあると思います。

しかし、いつも手を挙げたら車が止まってくれるとは限りません。手を挙げても気付いてもらえないことがあるでしょう。また気付いていてもドライバーの立場として、対向車が来ている場合、自分が止まったのに対向車が止まらなかったら安心して渡っている歩行者が引かれてしまうことを恐れて、止まらない場面もあります。だから、ただ手を挙げるだけでなく、左右の確認をして、止まってくれたり待ってくれたりするドライバーさんがいたときは、手を挙げながら軽く会釈したら、譲ってくれているドライバーさんもよい気持ちになると思います。中尾小では、車が来てなくても手を挙げて渡っている場面が多く見られ、特に高学年の班長・副班長がやっている班を見ると嬉しさが倍になります。そこが素晴らしいです。ぜひ、一人でいるときも横断するときは手を挙げられる人になってほしいと思います。

中尾小学校の学区は、防犯ボランティアさんをはじめとする地域の方々や旗振り当番やパトロールの保護者の皆さんが子どもたちを手厚く見守っていただき、安全に生活できています。その方たちに子どもたちができる感謝の形は、気持ちのよいあいさつと手を挙げて横断歩道を渡ることです。言われなくても自主的にできている班と言われたら手を挙げる班があります。習慣化され、無意識でも横断歩道では手が挙がるようになればいいなと思います。上記タイトルは私が子どもの頃からあった交通標語ですが、今でも大事な意味を含んでいることを感じます。